

講演会 感想記入用紙

平成29年12月13日(水)

◇ 講師：三浦勝也氏(三浦勝也行政書士事務所)

◇ 演題：「簿記は人生を变える」

2年E組 3番 氏名 梶原 有龍斗

簿記を学んで人生が変わる。以外、私の人生は、特に変わったところはないように思う。強い言葉は、高校と選ぶ時に少し影響したかもしれない。というけれど、しかし、今回の講話を聞いて、今のよう簿記が、私の人生を変え始めるのかもしれないと思ふ。私は今まで、簿記を学ばないで、あまり深く考えたことはなかった。なぜかと言へば、私が今目指している就職先は、一般的には簿記の知識が必要ない所だからである。けれども、今回の講演を聞いて、この先生きていく中で、簿記が必要な状況に立つのかもしれないと思ふ。今回の講演会は、行政書士とは何か、なぜ行政書士と簿記との関わりについての話があった。私は今回の講演を聞く前か、行政書士についての程度を知っていたつもりだったが、実際には知らないことかたくさんあるということがある。例えば、「決算報告書」と「事業報告書」の違い、である。今までとは正逆、同じ物だと思ふ。これは、建設業と運送事業と違う。全く違う業種のものである。今回の講演を通じて、今までよりも行政書士に対する理解を深めよう。私にはないかと思ふ。さらに、これから私が受けることになる建設業経理士の資格も出てきた。今まで、建設業

経理士についての言聞けたことはある、だけれど、12ヶ月分の集に立つのよりも理解してしまえばいい。今回の講演では、実際の書類に込めるものを見せられたことで、この資格の有用性も理解できたと思ふ。また、今の勉強は強制的なものでない、書類が必ず仕訳を必要とするというところも少しだけわかった。今まで、ただ持っていてはいいだけで、実際に使うところまでわかっていかなかった。簿記の知識がある程度、実際に生かせる面がある。そこでわかって良かったと思ふ。一番考えさせられたのは、話にはほじと出てこなかったが、簿記的感覚、の所である。なぜ考えさせられたかといえば、私達に一番欠けている物に思ふた。例えば、工場の問題その解説の時、「実務上は……という言葉が出てくることがある。この部分、実際に問題を解く時には必要な場合があり、そういう時は、ほじと人が、内容と関連して思ふていれると思ふ。例えば、「実務上は……」の部分には、簿記的感覚に込める考えがあると思ふ。今回の講演では、一番学ぶことができたのは、簿記的感覚を身につけるために、私達ができることなのかもしれない。

講演会 感想記入用紙

平成29年12月13日(水)

◇ 講師：三浦 勝也氏(三浦勝也行政書士事務所)

◇ 演題：「簿記は人生を変える」

2年 巨組 久番 氏名 今江 彩乃

私は、今回の講演会で、初めに行政書士について詳しく知りました。行政書士という職業は人にとって聞いたことはありましたが、その詳しい仕事内容や、仕事に関する言葉などは知りませんでした。とても貴重な講演会でした。今回の講演会の演題は、簿記が人生を変えることですが、私を本当にその通りだと思いました。私を、東商業に入塾し簿記を学んでから進路が変わりました。簿記を学ばなければ、今の進路にはようとは思わなかったと思います。今はまだ、簿記には、2年生が変えることは少ないですが、将来的には増えるのではなにかと思います。私は今まで、簿記が必須なのは経理事務職だという考えでした。ですが、販売・営業にも必要知識というのを知り、考えが変わりました。簿記の知識というものは職種の人にも必要知識であり、その知識があることで損するということは考えようになりました。今日の講演会の終わりにあった、実際に領収書から仕訳を行うというのを、私は少し不安になりました。検定の試験問題を解く力があらず、実際に会

社で領収書を見て仕訳ができてくれば、意味がなかなら思っています。今回出された問題には、ヒシヒシとした科目や消費税がわかりないうるものがあるが、領収書にはヒシヒシはありませぬ。ヒシヒシは領収書をその人の読みの解る方が必要だと思えます。今村君は、領収書を見て仕訳をするのは難しいと思えます。これはわかりました。その仕訳を覚えて、ヒシヒシはなりました。です。私は普段、友人との会話の中で知ることができると話を聞くとヒシヒシは、知るとヒシヒシはなりました。友人との会話でも大丈夫です。私が仕事に関することならば、相手や自分の会社には大きな損害を与えてしまう可能性があると聞き、この癖をなおさりたいと思いました。たかひは、知るとヒシヒシは大変なことだと思ったり、後で後悔するよりも先輩や上司に質問をしたり、話を聞いたりして、行動した方がヒシヒシはなりました。合格率は検定に関係ないという話を印象に残しています。私は、前回の日商簿記のヒシヒシは合格に気にしてヒシヒシはなりました。ですが、今回の講演会で合格率は自分で自分の努力が大切であることがヒシヒシはなりました。3月には検定をする予定の建設業の簿記では合格率は気にせずに勉強してヒシヒシは思っています。

講演会 感想記入用紙

平成29年12月13日(水)

◇ 講師：三浦勝也氏(三浦勝也行政書士事務所)

◇ 演題：「簿記は人生を変える」

2年 E組 26番 氏名 千葉彩音

私は今まで、簿記が将来役に立つものだと単純に
学んだものだ。とばかりに感じたが、たまたま
今回の講演会を受けて、意識が変わりました。
簿記の知識は職に直結する所が、ワークエ
ンセも知識をいかに有効につかえるかが、就職、人
生に関わる大切なものだ。と思いました。簿記の勉
強の仕方、人生と似ている。という風にも考えさせら
れました。たまたま間違えても、直してしまえば、正解が
出ていく、しかし、知ったフリをしてしまえば、直さ
ないまま、これからどうすればいいかわからず、困
ってしまう。という所は、とても似ている。三浦先生のお話
にあった、知ったフリをしない、素直な性格になら
なければならぬ。お話を聞いて、行政書士という職
業に興味が増えました。最少年取得者が14歳とい
う点にも驚きました。年齢や性別関係なく取得が
資格は公平な努力の力になるのだ。と考えを改め
ました。系属も大切ですが、今までの苦労や過
程も大切にして、前には進もうとする。チャレンジ精神や、やる気も、努力して

く、進んでいこう。と学ぶ姿勢が大切です。簿記の知識を
使うお仕事は、会社や地域の発展に役立つ。と聞いて、
街の活性化や、地域の系属発展の仕事がある。と聞いて
驚きました。大変だ。と思うかもしれませんが、とて
ある。と聞いて考える。と乗せよう。だ。と思いました。椅子
に1日中座り、パソコンや伝票など、計算し続ける
という先入観がある。たまたま、と簿記の知識を直結
する仕事について調心したい。と思いました。先生のお話か
ら、建設業経理士について初めて知ることができた。
知る。とて、それが、建設業が、ある。とて、知る。
人が、重宝。とて、知る。とて、知る。とて、知る。
価値がある。とて、知る。とて、知る。とて、知る。
め、知る。とて、知る。とて、知る。とて、知る。
たい。とて、知る。とて、知る。とて、知る。とて、知る。
が、若くして、資格取得。とて、知る。とて、知る。とて、知る。
確信。とて、知る。とて、知る。とて、知る。とて、知る。
思。とて、知る。とて、知る。とて、知る。とて、知る。
行政書士の。とて、知る。とて、知る。とて、知る。とて、知る。
を大切にする。とて、知る。とて、知る。とて、知る。とて、知る。
生。とて、知る。とて、知る。とて、知る。とて、知る。とて、知る。
気合。とて、知る。とて、知る。とて、知る。とて、知る。とて、知る。
学。とて、知る。とて、知る。とて、知る。とて、知る。とて、知る。

講演会 感想記入用紙

平成29年12月13日(水)

講師：三浦勝也氏(三浦勝也行政書士事務所)

演題：「簿記は人生を変える」

2年E組 杉澤 氏名 多刺 弊加

今回 私は行政書士という職業を初めて知りました。私たちの生活の中で行政書士としてお世話に由ることが多々あるとは聞いていて、そしてこれからは困りその原因となつての貸借対当表の相違点などの疑問を取扱、ているというのを初めて知りました。

簿記は「得可必損はしむ」という三浦さんの言葉。今回私達は簿記と出会う機会を「得可必損」を習、ているが、私はこの言葉は打たれたい。この先、三浦さんのこの言葉を信じ、簿記を自分のものにしていきたいと思ひました。

私たちが「今予て」授業、て習、た知識や転記、株式変動計算書などについて、役に立つのかわかと思、たことがありました。今回配られたプリントの中に株式資本等変動計算書がプリントされたものがありました。その時、改めて、社会に出て、簿記に關係する仕事を行う場合、今予て習、たことが役に立つんではない

と思ひました。

私は会計ビジネス科に入、たため、簿記を勉強しなくてはならないのではないかと思ひました。今回、三浦さんが話してくれた話の中に、簿記を学ぶことのメリットが語られました。色んな検定や資格をと、ていけば、就職に有利なのを知、ていきました。職場復帰の後押しには、たゞ、経理事務職以外の職種に必要なたくさりの知識などは、知りません。自分自身に求められる人材にはなりたいので、知、ているだけで、やるべきことをやるのだ、分かってい、たこと疑問がわいてきたら、先生方に聞くかと思ひました。

社会に出ると、間違ひをあると自分以外に迷惑がかかるので、今のうちに、その問題を解く、たこと間違ひ、正解を増やしたいかと思ひました。

東商の会計ビジネス科に入、て良かった。と思ひます。何事も前向きに取り組む、失敗を恐水が、簿記に出会ふたことを誇りに思ひ、この先、の授業、生活に生きてい、きたいと思ひます。行政書士のこの簿記のことを改めて知れたので、良かった。ありがとうございます。

講演会 感想記入用紙

平成29年12月13日(水)

◇ 講師：三浦 勝也氏(三浦勝也行政書士事務所)

◇ 演題：「簿記は人生を変える」

2年 F組 15番 氏名 北澤 七海

今回の講演会を私は初めて行政書士という職業を知りました。行政書士とは関係ごとに分けてプログラムがあるのに驚きました。法律のことをよく知っていていないとできない仕事だと思いました。書類の作成や手続きを行うという仕事なのに簿記を使うのだと思いました。今まで約2年間簿記を習ってきました。ですが自分自身がまだ知らない、見たことがない表があるとは思っておらず驚きました。

建設業経営士についてほとんどなく知っていてはいる程度でした。建設業をやるうえで建設業経営士はなぜ重要なのか存在なのかわかりました。建設業経営士の数が多いほど、業務経営事項審査の時の点数があがり公募事業を受けやすくなります。会社にとってもいいことだと思います。持っている人は資格手当や昇給などメリットがあります。資格を持っていては、持っているだけで対遇が違うのならば、持っている方が断然いいと思います。自分が将来やりたい仕事、就職先を定めるころにそういう対応があるかどうかを確認したいと思っています。自分がなりたいところをそういうのがあるかに注目しているという調心だと思います。

まず。

私は最近、簿記はパソコンで入力するだけで帳簿を作れるのではないか、それなら簿記の勉強をしなくていいのではないだろうかと思いました。ですがそれは違いました。最終的に間違えをちががあるかチェックするのは人からです。パソコンで簿記をすると、数字のけたを間違えたりなど、手書きでは考えられなかったミスがちな気がつけなければならぬと思います。

今回の講演会でも時間がかかって最後まで話を聞くことができませんでした。それが残念な仕方ありません。ですが資料にはない採用する時の話や仕事の話が聞けて聞いて楽しくなりました。この講演会では簿記のことについてもっと詳しく知ることができました。それに自分の知らない職業について知ることができました。職業についてまだ知らないうことが多くあります。そのためたくさん人の職業について話を聞きたいと思っています。

講演会 感想記入用紙

平成29年12月13日(水)

◇ 講師：三浦 勝也氏(三浦勝也行政書士事務所)

◇ 演題：「簿記は人生を変える」

2年 F組36番 氏名 松本リサ

入学時(簿記)のやる気は満ちていたが、徐々に
増え、それがたのしみになった。今日の講演を
聞いた、新しいことを始めるのに早くて遅い
もたんだと思えた。ならば自分を選んで
また学科の学習に誇りを持つて意欲的に
取り組まないと。もうたいてい感じました。
毎日を大切にして吸収して。すると。それから
学んでいけばいい。いい。いい。いい。いい。
また、職業として行政書士とは正直まだ
ピンと来ない。たいてい、事務だ。たいてい
簿記が使える。たいてい。たいてい。たいてい。
視野を広げたい。たいてい。たいてい。たいてい
思った。電卓確定1級を取るといい。その
せいで計算が。仕事にたのしみ。たのしみ。
あり、入試と電卓をたいた。たいてい。たいてい
仕事にたのしみ。簡単には。たいてい。たいてい
感じた。

確定を取るまでの苦労が大切だとおっしゃ
られた時、私は中途半端に途中まで
たのしみ。たのしみ。たのしみ。たのしみ。
原価計算の確定のときは。たいてい。たいてい
ように。金がかかると。たいてい。たいてい。

Blank lines for additional notes.